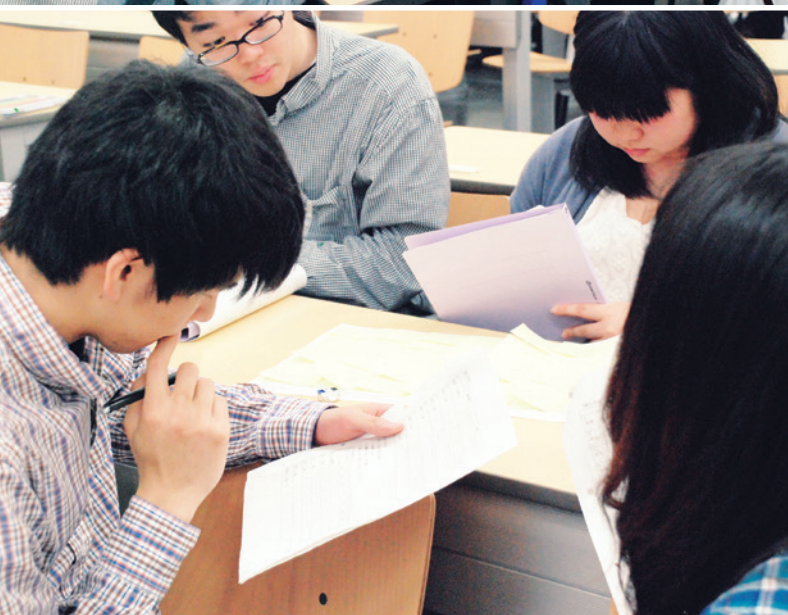
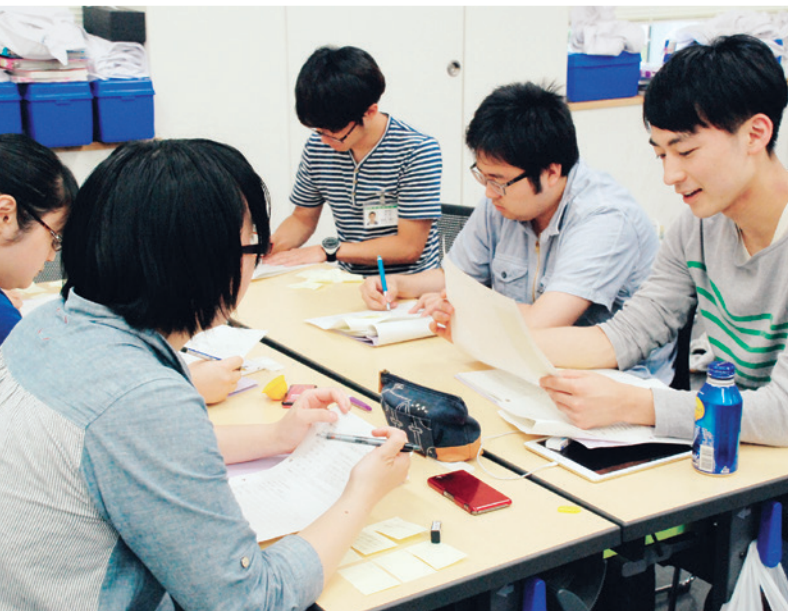




表紙写真の解説

医学部・歯学部・薬学部合同のIPE(多職種連携教育)の一環として、今年度より「チーム医療リテラシー」を開講しました。

今回は、死生学・老年学をテーマに、これまでの教養教育・専門教育の成果をいかし、医学・歯学・薬学の学生が緩和医療学・行動科学について学習しました。講義やワークショップを通じて、チーム医療のためのコミュニケーションの在り方や多職種協働の実態を学びました。

今年度より始まった3学部合同授業「チーム医療リテラシー」

- 巻頭言——「副学長(歯学部改革担当) 就任にあたって」
「医療専門学校長就任のご挨拶」
- 特集——「岩手医科大学医療専門学校の紹介」
- 新任教授の紹介
- トピックス——「ハーバード大学の歯学部学生externship研修
受入れを行いました」
- フリーページ——すこやかスポット医学講座「メモリークリニックについて」

副学長(歯学部改革担当)就任にあたって

副学長・歯学部長

三浦 廣行

(口腔医学講座歯科医学教育学分野 教授)



平成10年7月に、教授歯学部歯科矯正学講座担当(現 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野)に就任し、本年3月に定年退職するまでの間に、歯学部長、歯学部附属病院院長、岩手医科大学附属病院副院長(歯科医療センター長)、歯科医師卒後臨床研修センター長、総合歯科臨床教育センター長、岩手歯科技工専門学校長、歯科衛生専門学校長、医療専門学校長を務めてまいりました。この間職責を遂行するにあたり、多くの皆様にご指導ならびにご協力を戴きましたことに感謝申し上げます。

この度、4月1日付けで、副学長(歯学部改革担当)兼歯学部長、口腔医学講座歯科医学教育学分野教授に任ぜられ、これまで以上に責任の重さを身に沁みて感じているところです。

大学の責務の第一にあげられるのが教育です。教育は、学部学生や院生を対象とするのはもちろん、医局員の臨床指導、研究指導、さらにスタッフや専門学校生の指導も含まれます。教育の目的は「次世代を担うことのできる、成熟した、公民意識の高い社会成員」を作り出すことにあります。そこで歯学部にはこれからの歯科界を牽引する強いリーダーシップを発揮する人材を育てるために、教養を伴った専門性と判断力、統率力、人間力、コミュニケーション力の育成が必要です。これには現在歯学部で進行している歯学部改革プロジェクトの更なる実行とともにハーバード大学との連携を活用することで可能となると考えています。

一般に、教育目標が変わり、システムが変わり、プログラムが変わると、混乱するのは教育現場であり、その混乱の被害をともに受けるのは学生自身です。学生教育に於いては、やり直しがきかないのです。

現在歯学部で行なわれている教育改革では、この点を十二分に考慮した上で、カリキュラムの大幅な見直しを行ない実施していますが、今後PDCAサイクルをしっかりとまわして行く必要があります。

副学長として、本学の教員、学生、事務職それぞれに、自分たちは他の大学より進んだ教育を実

施している、教育を受けている、教育を担っているという自信と誇りと優越感を植え付ける事が使命のひとつと考えています。そしてそれが、歯学部ひいては大学の伝統として、無形の力となって将来の発展に繋がるものと確信しています。

とくに教員は、常に学生に夢を語り、学生の輝かしい将来像を夢見させ、希望を大きく膨らませていく責務があります。誉めて育てる夢ある教育が大切です。そのためには、教員自身に活力と努力が要求されます。

夢ある、魅力ある歯科界にしていくためには、まず教員自身が自ら夢を持ち、多くの知識を得、更なる技術を磨き、人間性を高めていくことこそが最優先されるべきことです。常に上を目指し、バイタリティのある魅力的な先生であれば、学生に与える影響は計り知れません。教員が明るい未来を語ることで、学生は教員の背中を見て育ちます。

教員の意識改革こそが極めて重要かつ最優先課題であると考えます。

また新設されました口腔医学講座歯科医学教育学分野では、スタッフの充実をはかり、入学生の募集から、教養教育、学部教育、臨床実習、国家試験対策、歯科医師臨床研修、大学院生教育、専門学校生教育について等、歯学部における一環した教育の在り方を全般的に検討して行く考えております。

社会が急速かつダイナミックに変化している現代、我々自身が将来を見越して迅速に行動する必要があります。現状を維持するには、自らが変わらなければなりません。何もしなければ現状から後退し取り残されるばかりです。現状を打開するには、我々が大きく変わらなければならないのです。道を切り開いていくのは我々一人ひとりの行動力と忍耐強い、不断の努力です。

今後とも学内の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

医療専門学校長就任の挨拶

岩手医科大学医療専門学校長

小豆嶋 正典

(口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 教授)



この度、平成 27 年 4 月 1 日付で、医療専門学校長を拝命致しました。私は歯学部 8 期の卒業生ですが、学生時代から今日に至るまで歯科衛生士さんや歯科技工士さんにはコメディカルとして大変お世話になっておりました。今後はその方々を養成する専門学校長として、その責務を果たして行きたいと思います。

本校は、平成 23 年 4 月 1 日に歯科衛生専門学校と歯科技工専門学校が統合し、それぞれ歯科衛生学科と歯科技工学科として新生しました。さらに今年は、歯学部内丸キャンパスにあった歯科技工学科が、上ノ橋にある歯科衛生学科と同じ建物に入ることになり、実習室や教場の移動が完了しました。上ノ橋校舎は、もともと昭和 39 年に創設された岩手県立衛生学院の移管を受けたものであり、現在かなり老朽化が目立つ建物になってしまいました。

さて歯科衛生士の養成学校は全国で 155 校あります。設立母体としては、国立大学附属学校、国立大学歯学部附属学校、地方自治体の公立学校、私立大学歯学部附属学校、歯科医師会立学校、歯科・医療関係者による私立学校に分類されます。4 年制大学は 8 校、短期大学は 13 校、その他は専門学校になっております。2014 年のデータでは、就職者に対する求人倍率は 15.0% と非常に高い数値ですが、専門学校の入学定員充足率は 91.6% となっており、どこの学校でも入学定員の充足が課題となっているようです。また歯科技工士養成校については、全国に 55 校あり設立母体は衛生士養成校と同様です。形態としては多くが専修（専門）学校ですが、4 年制大学や短期大学もあります。しかしながら歯科衛生士と同様、求人倍率が高いに

も関わらず入学定員充足率が 100% に達している養成校はほとんどありません。これは手先の器用さが求められることや就業後の所得の問題の他に、18 歳人口の減少による志願者不足という要因も関わっています。18 歳人口のピークは昭和 42 年だったそうですが、それを 100 とすると平成 26 年は 49 と半減しているとのことです。入学者の減少傾向が続いたため就業歯科技工士の高齢化も生じ、50 歳以上の割合は平成 24 年には 43.2% となっているのが現状です。このような状況のもと、専門学校を経済的にも維持することはやさしい時代ではないことを認識しております。

歯が丈夫な人は長生きするというデータがあります。口は「生きる」の入り口であり、「食べる」「しゃべる」という行為はもちろんのこと、それらが可能にする人間のさまざまな営みや、そのさきにある喜びまで口が支えています。国民の歯科医療を守るためには、歯科医師と同様、歯科衛生士も歯科技工士もなくてはならない職業人です。幸い当校は、国家試験合格率が毎年ほぼ 100% であり卒業生は各地で活躍しております。医系総合大学で学ぶことのできる専門学校であるメリットを生かし、入学者の充足率向上を図ると共に、さらなる教育の充実を図り、有能な人材を世に送り出すことが使命と認識しております。そして歯科衛生士や歯科技工士となることを目指して入学してきた学生さんの全てが、本学の建学の精神である「誠の医療人」とならんことを願って学生教育に取り組む覚悟でおります。皆様にはこれまでの格別のご支援に深く感謝いたしますとともに、今後も一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

岩手医科大学医療専門学校のご紹介



歯および口腔の健康を保つことは、おいしく食べ、楽しく語るなど豊かな人生を送るための基本となります。さらに高齢者や要介護者においては、咀嚼機能の向上のみならず、誤嚥性肺炎発症の低下や日常生活活動（Activities of daily living：ADL）の改善にもつながります。これらをサポートするのは、歯科医師や歯科衛生士・歯科技工士・栄養士など多くのコメディカルの方々です。医療専門学校では、医系総合大学である岩手医科大学の環境下で、他職種との連携や質の高い教育の実践に努め、少子化や高齢化による医療環境の変化に対応できる医療人を育成してまいります。

医療専門学校は、3年制の歯科衛生学科と2年制の歯科技工学科により構成されております。卒業時にはどちらも国家試験がありますが、毎年ほぼ100%の合格率を保っております。これも岩手医科大学の系列校として、学部の方による教育スタッフと実習環境に恵まれているためと思われます。歯科衛生学科と歯科技工学科の卒業生に対する求人数は、それぞれ在籍者数の8倍、14倍と高値を保っております。就職状況をみると両者とも2/3程度が県内に就職しておりますが、歯科衛生士の場合、歯科開業医に勤務しております。また歯科技工士では歯科開業医よりも技工所に就職する割合が多くなっております。

歯科衛生学科 学校見学会

6月27日（土）
7月25日（土）
8月22日（土）
9月26日（土）
12月5日（土）

- ★学校のあらまし
- ★歯科衛生士の仕事について
- ★資格と就職について
- ★施設紹介
- ★各種体験コーナー
- ★推薦入試対策講座
- ★一般入試対策講座
- ★施設見学コーナー
- ★在校生との懇談コーナー
- ★在校生への質問コーナー
- ★進学費用の相談コーナー

※開催日により内容が変更します

歯科技工学科 体験入学

6月27日（土）
8月1日（土）
8月22日（土）
9月26日（土）
10月24日（土）
12月24日（木）

- ★歯科技工士について
- ★学校のあらまし
- ★歯科技工製作物の紹介
- ★歯科技工士体験学習

【体験入学の持ち物】
髪の高い人は
髪をまとめるもの

歯科衛生学科編

Q 1：現場実習ではどんな活動をしているんですか

A 1：医療人としての基本姿勢を学ぶには実習が不可欠。当校では1年次から岩手医大歯科医療センターでの実習が行われています。歯科医院や保健施設などを含めると、臨床実習は3年間のおよそ1/3！医療現場で求められる知識やスキルを肌で感じ、学ぶことができます。

Q 2：手先が不器用なのですが、歯科衛生士になれますか

A 2：当校は少人数指導、医療器具の持ち方から動かし方まで、徹底的にアドバイスするので大丈夫！



幼稚園での保健指導実習

むしろ患者さんと接する機会の多い歯科衛生士には、コミュニケーション能力こそが求められています。

Q 3：進路選択で文系のクラスにいますが、理系じゃないと不利でしょうか

A 3：当校の入試科目は、現代文・小論文・面接の3つ。試験自体には理系科目がないので、文系の人でも受験しやすい試験科目になっています。だから大丈夫！今からでも歯科衛生士を目指せますよ。



小学校での保健指導実習

歯科技工学科編

Q 1：手先が不器用なので心配です

A 1：手先が覚えるまで繰り返し何度も練習しますから、必ず思い通り手先を動かせるようになります。スタートラインはみんな同じ。手先の器用さより、興味・関心があることが大切です。実は私も同じ質問をしたのですが、「大丈夫」と強く言ってもらい、入学を決めました。先生もていねいに指導してくれるので、心配しなくて大丈夫。

Q 2：女性でもなれますか

A 2：男性のイメージが強い職業ですが、本校では現在、半数近くが女性です。歯科技工士はいったん資格を取得すると一生続けられる仕事でもあり、活躍する女性も増えてきてます。

Q 3：勉強が大変と聞きました

A 3：歯科医学の基礎知識と正確な技術の修得が必須です。すから、簡単ではありません。本校では、講義と実習

の2本立てで授業を進めます。少人数グループで実技指導を行い、上達を見て個人指導も行うなど、皆さんがやり遂げられる環境を整えています。

Q 4：時代が変化の中で歯科技工士の将来性はどうでしょうか

A 4：高齢化社会となり、義歯などの需要が増えています。歯の矯正や色調の修正を行う審美歯科医療にも歯科技工士はかかせません。歯科技工は今、従来のやり方と、新しい技術の過渡期にあります。知識や技術を磨き、幅広いニーズに対応できる歯科技工士になるのが、私の目標です。

最後に、各学科の「学校見学会」「体験入学」(4ページ)は、年5～6回ずつ開催。施設の見学や体験授業のほか、在校生へ学校生活のあれこれを質問することもできます。学校の環境や雰囲気を自分の目で確かめるチャンス。職員の皆様、ぜひご子弟やご親戚の方へお伝えください。



学生実習①



学生実習②

学校法人岩手医科大学

平成27年度予算

1. 予算編成にあたって

平成27年度事業計画予算は、新病院の設計・造成工事、エネルギーセンター建設などがあり、総合移転整備事業の推進が主なものとなっています。その他には、循環器医療センター MRI装置更新に伴うシールド工事などがあります。

また、創立120周年記念事業は、矢巾新附属病院建設などの総合移転整備事業や看護学部の新設などがあり、その実施に向けた事業資金の確保が最重要課題となっています。消費税の増税や診療報酬の改定などの社会環境が本学の経営に大きな影響を及ぼしており、さらに平成29年度に予定となっている消費税再増税、および建築資材などの高騰により病院建設に向けた事業資金計画の見直しなども検討しなければならない状況となっています。

このような厳しい環境下において、大学経営の安定維持に

は入学定員充足が不可欠であり、各学部の特性などを活かし入学生を確保していかなければなりません。また、本学の事業活動収入は約64%を医療収入が占めていることから、一層の患者確保に努め、医療収入の増収対策を推進し財政を安定させることにより、多額の資金を要する総合移転整備事業の事業資金計画に基づいた資金の確保に努めなければなりません。

これらのことから、平成27年度予算編成にあたっては、矢巾新附属病院建設などに向けた財政を考慮し、収入については、医療収入などの増収に努め、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得を図らなければなりません。また、支出については、教育・研究・医療活動を円滑に遂行できるよう配慮のうえ、可能な限り圧縮したものとしました。

2. 主な予算項目

平成27年度事業活動収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金85億4,114万円（事業活動収入に占める割合15.9%）、医療収入342億8,160万円（同63.9%）、補助金64億2,401万円（同12.0%）を計上しました。これら3項目で事業活動収入の91.8%を占めています。その他の収入は43億6,773万円（同8.2%）を計上し、事業活動収入予算総額は536億1,448万円を計上しました。

支出予算では、人件費207億187万円（事業活動支出に占める割合42.0%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）142億2,843万円（同28.9%）、その他の諸経費など143億8,418万円（同29.1%）を計上し、事業活動支出予算総額は493億1,448万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△58億円の組入を計上したことにより、平成27年度は△17億円の支出超過（赤字）を計上した予算編成となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約63.9%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約70.9%を占めています。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部46億2,356万円、歯学部18億6,458万円、薬学部19億2,800万円、医療専門学校1億2,500万円、合計85億4,114万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院(医科)、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院、PET・リニアック先端医療センターを合計した医療収入予算は、入院収入246億8,737万円、外来収入93億1,781万円、その他の医療収入2億7,642万円、合計342億8,160万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学経常費補助金24億1,028万円、その他の国庫補助金9億3,401万円、また、地方公共団体補助金は15億4,259万円を計上し、合計48億8,688万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金15億3,713万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は、社会情勢を考慮し定期昇給分1.84%を見込んで194億3,411万円、また、退職金関係では12億3,690万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計207億187万円を計上しました。

5. 医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費76億7,737万円（医療経費率22.4%）、医療材料費63億952万円（同18.4%）、給食材料費2億4,154万円（同0.7%）を計上し、医療経費は合計142億2,843万円（同41.5%）を計上しました。

6. 研究費

医学部・薬学部の講座研究費は、講座等の組織改編に伴い基本額を調整し、配分額の変更を行いました。歯学部・教養教育センターの講座研究費及び個人研究費にあたる特別研究費は、前年度と同額を計上しました。

7. 施設関係

建物・建物付属設備等は、循環器医療センター MRIシールド工事4,860万円、その他工事2億5,140万円、合計3億円を計上しました。

建物仮勘定は、病院移転整備事業として、エネルギーセンター建設工事44億7,230万円、設計管理業務1億1,690万円、その他4億1,080万円、合計50億円を計上しました。

8. 設備関係

機器備品などの購入予算として、10億1,540万円を計上しました。

平成27年度 事業活動収支予算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,541,140	人件費	20,701,870
	手数料	218,680	医療経費	14,228,430
	医療収入	34,281,600	消耗品費	1,145,960
	寄付金	1,403,000	光熱水費	1,336,700
	経常費等補助金	4,886,880	旅費	284,710
	付随事業収入	1,401,500	修繕費	587,500
	雑収入	962,210	業務委託費	4,057,740
			減価償却額	3,575,190
			その他の諸経費等	2,443,950
	教育活動収入計	51,695,010	教育活動支出計	48,362,050
教育活動外収支	受取利息配当金	57,340		
	教育活動外収入計	57,340	教育活動外支出計	0
特別収支	その他の特別収入	1,862,130	資産処分差額	135,430
			その他の特別支出	817,000
	特別収入計	1,862,130	特別支出計	952,430
	事業活動収入合計	53,614,480	事業活動支出合計	49,314,480
			予備費	200,000
			基本金組入前当年度収支差額	4,100,000
			基本金組入額合計	△ 5,800,000
			当年度収支差額	△ 1,700,000

平成27年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,541,140	人件費支出	20,838,470
手数料収入	218,680	諸経費支出	24,060,810
医療収入	34,281,600	施設関係支出	5,300,000
寄付金収入	1,670,000	設備関係支出	1,015,400
補助金収入	6,424,010	資産運用支出	4,503,000
付随事業・収益事業収入	1,401,500	その他の支出	5,415,830
受取利息・配当金収入	57,340	予備費	500,000
雑収入	962,210	資金支出調整勘定	△ 4,162,040
前受金収入	1,555,120	次年度繰越支払資金	16,736,700
その他の収入	13,803,420		
資金収入調整勘定	△ 9,706,850		
前年度繰越支払資金	15,000,000		
収入の部合計	74,208,170	支出の部合計	74,208,170

※詳細な説明・確認等を希望される方は、財務部経理課（内線 3214・3215）まで照会願います。

永年勤続者表彰式が行われました

5月12日（火）、歯学部棟4階講堂にて、平成27年度の永年勤続者表彰式が行われました。本年度の表彰者は、勤続30年の方が31名、勤続20年の方が33名でした。

式典では、小川理事長より代表者へ表彰状と記念品が授与され、式辞が述べられました。これを受けて多田 育美さんが謝辞を述べ、式典終了後に壇上に記念撮影を行いました。その後、会場を記念館8階に移して祝賀パーティーが催され、勤続のお祝いをするとともに今後益々のご活躍を祈念し、盛会裡のうちに終了となりました。



勤続 30 年

青村 知幸
遠藤 直子
川崎 福栄
川代 千恵子

工藤 静子
小岩 恵美子
小館 千公
齋藤 知子
齋藤 法彦

櫻田 潤子
佐藤 和義
佐藤 浩二
佐藤 文彦
三本松 史子

小豆嶋 正典
白岩 秀子
相馬 祐子
高橋 直子
田口 育子

多田 育美
千葉 まゆみ
中村 一美
平野 久美子
藤田 理加

三善 山岸 明子
山崎 郁子
吉田 順子
吉田 美香

吉田 睦子
和田 亮

計 31 名
(所属・敬称略)



勤続 20 年

石川 麻湖
石森 由樹
伊藤 努
上杉 憲幸

及川 みどり
及川 利枝子
及川 涼子
大久保 真奈美
大田 美知子

小笠原 静子
柏葉 匡寛
加藤 里絵
北畠 めぐみ
齋藤 敬子

佐々木 幸子
佐々木 美由紀
佐々木 由希子
佐藤 悦子
佐藤 真一

佐藤 美和子
澤田 幸司
関向 えみ
高橋 美香子
多田 直子

永野 桂子
中村 隆二
二本木 壽美子
花岡 克洋
藤原 淳一

藤原 由美子
松木 雪恵
村野 恵美子
山内 広平

計 33 名
(所属・敬称略)

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

平成26年6月から始めました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第4回目の御芳名紹介です。(平成27年3月1日～平成27年4月30日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（6件）

<2,400,000>	圭陵会 三八支部（青森県八戸市）
<1,000,000>	医療法人 七藤会 もりおか胃腸科内科クリニック（岩手県盛岡市） 株式会社 岡村製作所北東北支店（岩手県盛岡市）
<200,000>	圭陵会 学内支部（岩手県盛岡市）
<御芳名のみ掲載>	医療法人 リアホナ会 鈴木医院（群馬県太田市） 丸木医科器械 株式会社（宮城県仙台市）

（順不同、敬称略）

●個人（32件）

<1,010,000>	三浦 廣行（役員）	古舘 はるみ（一般）
中居 賢司（医23）	佐々木 達（父母）	大久保 文俊（父母）
<1,000,000>	小原 紀彰（医17）	角田 健也（医20）
塚原 光典（医48）	鎌田 弘之（医33）	増戸 尚（医20）
堀 晃（医22）	藤岡 知昭（名誉教授）	藤井 勲（教職員）
堀 美知子（医22）	齋藤 文彦（医10）	谷田部 好昭（父母）
瀬田 道宏（医23）		

（順不同、敬称略）

<200,000>
吉村 治範（歯15）

<100,000>
五十川 毅（父母）

<御芳名のみ掲載>

畑山 尚三（顧問）
高金 弘（医33）
葛西 健郎（他62）
太田 純基（父母）
佐藤 俊一（役員）
村上 壽治（医20）
佐藤 孝（教職員）
遠藤 厚（顧問）
山下 恵子（歯5）
大澤 憲二（元職員）
遠藤 祐一（元職員）
及川 吏智子（元職員）
岩井 敦子（元職員）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭陵会	239	201,150,000
在学生ご父母	179	102,355,000
役員・名誉教授	24	25,060,000
教職員	58	9,167,000
一般	16	7,750,000
法人・団体	55	151,800,000
合計	571	497,282,000

（平成27年4月30日現在）

岩手医科大学120年史編纂に係る歴史資料等の寄贈について(お願い)

岩手医科大学では創立120周年記念事業の一環として、「記念誌」の発行に向けた、歴史資料の整備を進めております。本学の歴史に関わる写真や文書、手紙、物品等についてお心当たりがございましたら、当事務室までご寄贈、ご貸与下さいますよう、特段のご支援をお願い申し上げます。

なお、お問い合わせは下記までお願い致します。

お問い合わせ

岩手医科大学 企画部 創立120周年記念事業事務局（内線7022） E-Mail anniv@j.iwate-med.ac.jp

新任教授の紹介

泌尿器科学講座

阿部 貴弥 (あべ たかや)

昭和 41 年 5 月 28 日
和歌山県和歌山市生まれ



研究テーマ

- ・腎疾患治療 (特に腎不全)
 - ・尿毒素の解明 (特に腸内細菌叢由来アルブミン結合尿毒素)
 - ・血液浄化療法、アフエリシス療法 (アルブミン透析)
- 主な著書論文**
- ・食物繊維製剤が透析患者の腸内細菌叢由来尿毒素に及ぼす影響 (透析会誌. 1996; 29: 1529-37.)
 - ・アルブミン結合尿毒素の新しい除去方法: アルブミン透析液の効果 (Ther Apher 2001; 5: 58-63.)
 - ・透析アミロイドーシスに対する $\beta 2$ ミクログロブリン除去カラムの効 (Kidney Int 2003; 64: 1522-8.)

趣味

野球、ドライブ、食べ歩き

教職員への自己PR

「インドキシル硫酸など腸内細菌叢由来アルブミン結合尿毒素」の成因や治療法の研究を中心に、「腎疾患の進行予防」および「透析患者の生命予後の改善」を目指して、腎疾患治療および血液浄化療法を中心に教育・診療・研究に携わって参りました。腎疾患治療および血液浄化療法は、チーム医療の上で成り立っている治療です。今後、学生・医師への教育のみならず、医療スタッフに対する教育に積極的に取り組んでいきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

経歴

平成 3 年 岩手医科大学医学部 卒業
東海大学医学部附属病院 前期研修医 採用
平成 5 年 東海大学大学院医学研究科 形態系 入学
平成 9 年 和歌山県立医科大学 腎センター 採用
平成 13 年 Scribner Kidney Center, University of Washington 留学
平成 15 年 神戸大学医学部附属病院 代謝機能疾患治療部 助手
平成 21 年 岩手医科大学泌尿器科学講座 講師
平成 27 年 4 月 現職

臨床遺伝学科

福島 明宗 (ふくしま あきむね)

昭和 33 年 4 月 11 日
北海道札幌市生まれ



研究テーマ

- ・非侵襲的出生前診断法の開発と臨床応用
 - ・臨床遺伝学、遺伝カウンセリング
- 主な著書論文**
- ・胎児心磁図による胎児自律神経活動の評価 (Clinical Medicine: Cardiology 2008; 2: 33-39)
 - ・胎児心磁図を用いた胎児の多形性心室頻拍の出生前診断 (Heart and Vessels 2010; 25: 270-273)
 - ・187 チャンネル高分解能心電計と NT-pro BNP による周産期心筋負荷の解析 (International heart Journal 2013; 54: 140-145)

趣味

写真撮影 (主に風景)、各種交通機関 (鉄道、航空機、船、車) を用いた旅行、神社仏閣巡り

教職員への自己PR

盛岡に来てはや 38 年の年月が経過しておりました。過ごした時間からみると生粋の盛岡人と言っても過言ではないかと思えます。このたび臨床遺伝学という新たな分野を担当することになりました。近年遺伝との関わり合いがあまり無いと言われていた生活習慣病への遺伝的関与が注目されております。私は元来産婦人科臨床医ですが、今後は産婦人科領域に限らず、遺伝に関わる医療・医学全般に取り組んでいく所存であります。ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 59 年 岩手医科大学医学部 卒業
同産婦人科入局
昭和 63 年 同大学院医学研究科修了 医学博士
同産婦人科助手
平成 2 年 八戸赤十字病院産婦人科副部長
平成 4 年 米国ニューメキシコ州立大学訪問研究員
平成 10 年 岩手医科大学産婦人科講師
平成 20 年 同准教授
平成 23 年 岩手医科大学臨床遺伝学科特任教授
平成 27 年 4 月 現職

口腔保健育成学講座歯科矯正学分野

佐藤 和朗 (さとう かずろう)

昭和 38 年 10 月 23 日
宮城県仙台市生まれ



研究テーマ

- ・口腔機能と不正咬合の関連性
- 主な著書論文**
- ・デキタメタゾンが成長期ラットの咬筋湿重量に及ぼす影響について (Orthodontic Waves, 2009, 68, 6-11)
 - ・不正咬合と全身の病気 (田中健蔵、北村憲司、本田武司 監修 口腔の病気と全身の健康 2011, 61-66)
 - ・口腔内装置と CPAP の併用治療 (梅 博久、櫻井 滋 監修 高橋昌克 編集 睡眠障害 知る診る治す 2014, 144-146)

趣味

植物栽培、早朝ジョギング

教職員への自己PR

盛岡の地に生まれてから 26 年目を迎えました。私が若いときに担当した患者さん方が、ご自分のお子さんの矯正歯科治療でまたお見えになり、そのお子さん達も社会人や大学生になるほどの時間が過ぎました。私の年齢からお孫さん達の治療は出来るかは判りませんが、矯正歯科治療は患者さんの老若男女を問いません。教室員と力を合わせて、皆さん方に健康で美しい噛み合わせを提供できるよう頑張りますので、何卒宜しくお願いいたします。

経歴

平成 2 年 日本大学歯学部歯学科 卒業
岩手医科大学大学院歯学研究科 (歯科矯正学専攻) 入学
平成 6 年 同大学院 修了
平成 9 年 岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座 助手
平成 14 年 同 特任講師
平成 26 年 岩手医科大学口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 准教授
平成 27 年 4 月 現職

口腔医学講座関連医学分野

千葉 俊美 (ちば としみ)

昭和 39 年 1 月 5 日
岩手県盛岡市生まれ



研究テーマ

- ・機能性消化管疾患における病態の研究
- ・薬剤起因性上部消化管傷害の研究
- ・炎症性腸疾患における栄養評価

主な著書論文

- ・下痢型過敏性腸症候群におけるラモセトロン長期投与の有効性と安全性 (Clin Exp Gastroenterol 2013; 25: 123-128)
- ・シネ MRI を用いた慢性偽腸閉塞症における腸管蠕動運動の評価 (Am J Gastroenterol 2013; 108: 113-1139)
- ・過敏性腸症候群患者のポリカルボフィル製剤投与におけるサイトカインの動態 (Hepatogastroenterology 2011; 58: 1527-1530)

趣味

バレーボール

教職員への自己PR

本学において消化器内科医として診療、研究および教育に携わって参りました。今後は歯学部で現在まで積み上げて参りましたがさらに関わり合いを深めたいと考えます。高齢化社会における歯科学領域での医学的知識はさらに重要視されていくものと思われます。本学のさらなる発展のために努力して参る所存ですので、皆様何卒よろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 63 年	岩手医科大学医学部卒業
平成 4 年	岩手医科大学大学院医学研究科修了
平成 5 年	岩手県高次救急センター助手
平成 6 年	岩手医科大学医学部内科学第一講座副手
平成 9 年	米国ミネソタ州、Mayo クリニック、GI unit、リサーチフェロー
平成 12 年	岩手医科大学内科学第一講座助手
平成 17 年	同講師
平成 21 年	内科学講座消化器・肝臓内科分野准教授
平成 27 年 4 月	現職

機能生化学講座

中西 真弓 (なかにし まゆみ)

昭和 40 年 6 月 29 日
東京都葛飾区生まれ



研究テーマ

- ・骨代謝におけるプロトンポンプ ATPase の機能解析と阻害剤の探索
- ・ATP 合成酵素を標的とした抗菌剤の探索
- ・トロンビンによる血小板凝集を誘導する情報伝達機構の解析

主な著書論文

- ・破骨細胞に特異的なプロトンポンプ ATPase (Biochim. Biophys. Acta 1837, 744-749, 2014)
- ・ε サブユニットによる ATP 合成酵素の阻害機構 (J. Biol. Chem. 289, 30822-30831, 2014)
- ・トロンビン受容体ファミリーの協同的活性化 (Nature 404, 609-613, 2000)

趣味

ドライブ、読書

教職員への自己PR

平成 19 年 薬学部の開設に伴い本学に赴任いたしました。岩手の自然の美しさ、食材の美味しさ、人柄の温かさに、日々感動して過ごしております。生命のしくみに興味をもって四半世紀、知れば知るほどその素晴らしさに魅了されます。この思いを胸に薬学研究にあたり、骨代謝異常症の治療法や抗菌剤の開発につながることを期待しています。また、生命の素晴らしさが伝わる教育を目指し尽力する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

経歴

平成元年	東京大学薬学部 卒業
平成 6 年	同大学大学院薬学系研究科 博士課程修了 癌研究会癌研究所 遺伝子研究施設部 研究員
平成 9 年	米国 UCSF 心臓血管研究部門 研究員
平成 12 年	第一三共株式会社 東京研究開発センター 研究員
平成 16 年	科学技術振興機構 (微生物化学研究センター) 研究員
平成 19 年	岩手医科大学薬学部機能生化学講座 准教授
平成 27 年 4 月	現職

教養教育センター人間科学科哲学分野

遠藤 寿一 (えんどう としかず)

昭和 33 年 11 月 16 日
静岡県富士宮市生まれ



研究テーマ

- ・カント哲学
- ・生命倫理における人格同一性の問題

主な著書論文

- ・医学生のための生命倫理 (共著) (丸善出版, 2012)
- ・人格の同一性と死 (岩手医科大学共通教育研究年報, 48:1-10, 2013)
- ・私たちは動物かー動物主義の妥当性についてー (東北哲学会年報, 31:19-31, 2015)

趣味

読書 (夏目漱石、多和田葉子)、音楽鑑賞 (フジファブリック、indigo la End)、映画鑑賞 (エドワード・ヤン、コーエン兄弟)

教職員への自己PR

人はいつ死ぬのか。心肺が停止したときなのか、脳死状態になったときなのか。そのいずれかだとして、その根拠は何か。科学や医学は考える材料を提供してくれますが、どこに線を引くべきかについては教えてくれません。こうした問題は社会的な合意に委ねられています。しかし、社会は個人から成り立っているのです。まずは一人で考えてみるところから始めなければなりません。その際の一助となるべく、哲学や生命倫理の研究や教育をしています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 56 年	東北大学文学部 卒業
昭和 62 年	日本学術振興会特別研究員 (DC)
平成 2 年	東北大学大学院博士課程後期満期退学
平成 9 年	秋田工業高等専門学校 人文科学系 助教授
平成 12 年	岩手医科大学教養部哲学科 助教授
平成 19 年	同共通教育センター 准教授
平成 26 年	同教養教育センター 准教授
平成 27 年 4 月	現職

総合医療安全対策講習会が行われました

平成27年度の総合医療安全対策講習会が、4月28日（火）から7回（録画映像による開催含む）にわたって歯学部棟4階講堂で行われ、合わせて約2,000名が参加しました。講習会では、江原医療安全管理部長櫻井感染対策室長、川口医療安全管理責任者、泉田主任臨床工学技士より講演が行われました。

また、4月28日（火）の本開催では、平成26年度医療安全表彰者2名・2部署と院内感染対策功労部署4部署に対し、江原医療安全管理部長から表彰状が授与されました。



徳丹城春まつりで本学さんさ踊り部とパフォーマンス同好会が演技を披露しました

4月29日（水）、徳丹城跡公園（矢巾町大字西徳田）において、徳丹城春まつりが行われ、本学さんさ踊り部とパフォーマンス同好会が演技を披露しました。徳丹城跡は、約1,200年の歴史を持つ国指定史跡で、この春まつりは今年で第11回目となります。

日頃の練習の成果を発表した両団体の演技は会場の賑わいに華を添え、来場者から大きな拍手が贈られています。

（下記写真は、本学写真部に撮影していただきました。）



さんさ踊り部



パフォーマンス同好会

薬学部白衣授与式が行われました

5月8日（金）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、薬学部5年生122名を対象とした白衣授与式が行われました。

授与式では、前田薬学部長と工藤実務実習部会長より、5月11日（月）から始まる実務実習にあたっての激励のことばがありました。

ご父兄や教員が見守る中、教員から学生へ白衣と名札が授与され、5年生を代表して滝平健登さん（写真右）が宣誓を行いました。



ハーバード大学の歯学部学生externship研修受入れを行いました

本学歯学部では、新しい教育システムを構築し、教育・臨床における将来のリーダーを育成するため、平成23年度よりアメリカのハーバード大学との提携の下、歯学部改革を行っております。

この提携の一環として、同大歯学部学生の学外研修（externship研修）を受け入れることになり、5月11日（月）～13日（水）の3日間、3名の受入れを実施

いたしました。今回は、前回平成25年12月の実施に引き続き、第2回目です。

実習は、歯科医療センターにて、診療科見学や実際の患者さんを相手に行われました。

13日（水）には、大槌町を訪れ、災害医療分野における歯科治療の重要性について学びました。

今後も学生・教員の相互交流が実施される予定です。



小川理事長への表敬訪問



歯科医療センターでの実習

ふれあい看護体験が行われました

5月13日（水）、本学附属病院にて、ふれあい看護体験が行われました。この体験は、ナイチンゲールの誕生日である5月12日「看護の日」にちなんで平成4年より毎年行われています。

看護の道を志す生徒の増加を背景に、今年は昨年の22名から60名に参加者が増えました。

ユニフォームに着替えた中高校生は、酒井病院長及び

三浦看護部長より挨拶を受けた後、それぞれの体験場所へ移動し、患者さんの搬送や誘導、清潔面の援助、車椅子での散歩、中央手術部の見学などを行いました。

参加した生徒からは「この体験を通して看護師になりたい気持ちを強くした」「患者さんとお話することも看護の大事な仕事なんだなと思った」といった感想が述べられました。



中央手術部での体験



西病棟3階での体験

附属病院小児科病棟で「こいのぼり会」が行われました

5月13日（水）、附属病院西5A病棟（小児科）にて、「こいのぼり会」が行われました。

この会は、西5Aに入院している子供やその保護者が少しでも入院生活を楽しんでもらえるよう、毎年5月に行われているものです。

会では、今年配属された新人看護師が着ぐるみに身を包み歌や踊りの他、薬剤部有志のミニコント（お菓子付き）が披露されました。

また、当日は、入院中の青松（せいしょう）支援学校の子供によるハンドベルの演奏が行われました。



新人看護師による催し

ビブリオバトル2015 in 岩手医大が行われました

5月29日（金）、矢巾キャンパス大堀記念講堂にて、「ビブリオバトル2015 in 岩手医大」が行われました。

ビブリオバトルとは「知的書評合戦」とも言われ、参加者が自分で選んだ本の魅力をどれだけ聴衆に伝えられるかを対戦形式で競うもので、平成26年度から始まり、今回で2回目となります。

第1学年の教養科目アカデミックリテラシーの一環として3学部合同で行われ、本に触れる機会を増やすことはもとより、論理的なプレゼンテーションスキルを養うことが期待されています。



チャンプとなった歯学部 浅倉 卓弥さん

チャンプ：歯学部 浅倉 卓弥さん（写真右から4番目）

「嫌われる勇氣」（岸見一郎・古賀史健・著）

最初は何の本を選ぶかが悩みましたが、岩手医科大学に入れたのもこの本のおかげだったので、今回のビブリオバトルで多くの人に紹介できて、またチャンプになれて非常に嬉しく思っています。

準チャンプ：薬学部 葛西 流聖さん（写真右から3番目）

「最後のトリック」（深水黎一郎・著）

自分が面白いと思った本をきちんと紹介できて、聴衆の皆さんにも面白さがきつと伝わったと思うので満足しています。

館長特別賞：医学部 齋藤 珠帆さん（写真左から2番目）

「賢者の書」（喜多川泰・著）

自分の話だけで本の良さを伝えられるかがとても不安でした。どんな風に話せば聴衆の皆さんに読みたいと思わせることができるか考えるのが大変でした。

分館長特別賞：医学部 杉山 信哉さん（写真左から3番目）

「プリズンホテル」（浅田次郎・著）

ビブリオバトルをやると聞いたときにすぐにこの本を紹介しようと思うくらい好きな本だったので、僕の発表を聞いて一人でも多くの人を読みたいと思ってくれば嬉しいです。



北上川上流総合水防演習で 災害時地域医療支援教育センターが防災展を出展しました

5月24日（日）、北上川南大橋下流側河川敷で行われた北上川上流総合水防演習（国土交通省東北地方整備局、岩手県、北上川上流流域内の15市町等の主催）において、災害時地域医療支援教育センターが防災展に日頃開催している研修会等の取り組みを紹介しました。また、この水防演習は、地域を水害から守るために重ねている日頃の訓練の成果を実演するもので、災害医学講座の眞瀬教授、藤原助教らは岩手DMATとして、河川が氾濫した想定での救助・救護訓練に参加しました。当日の演習参加者は約2,000人、一般見学者を含めると約5,000人が参加した大規模演習でした。



表彰の 栄誉

上野 和之 名誉教授が「瑞宝中綬章」を受賞しました

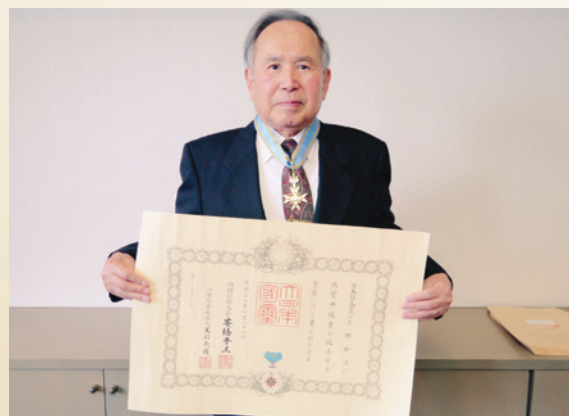
本学名誉教授の上野 和之 先生は、平成27年度春の叙勲において瑞宝中綬章を受賞しました。

上野先生は、昭和37年3月東京医科歯科大学歯学部を卒業、昭和41年3月に東京医科歯科大学大学院歯学研究科を修了され、その後、同大講師を経て、昭和45年5月に本学歯学部歯科保存学第二講座助教授に任用され、昭和48年11月に教授に就任、歯学部附属病院長などを歴任され、平成14年4月に名誉教授の称号が授与されました。

上野先生は、当時後発の学問であった歯周治療学の体系を確立させ、それに伴った歯周治療学の講義、臨床模型実習を実施するとともに、歯周病患者を通しての臨床実習を教授しました。

診療では、口腔単位の歯周治療を重視し、とくに高度歯周病例の罹患歯の保存には欠かせない歯周外科の必要性を浸透させました。

研究面では、臨床病理学的研究を行い、歯周組織再生に関する研究や慢性剥離性歯肉炎について、有用な知見を示唆し高く評されています。



千葉 工弥 診療放射線技師が第71回日本放射線技術学会で金賞を受賞しました

平成27年4月16日（木）～19日（日）、横浜で開催された第71回日本放射線技術学会において、中央放射線部の千葉 工弥 診療放射線技師がCyPos賞 金賞を受賞しました。この賞は新規性、実益性（研究が放射線技術科学的に役立つ）、完成度の点から審査され、600題に及ぶ応募の中から選考されました。

発表演題は「SSDE(size-specific dose estimates)算出における面積の測定と精度の検証」で、CT検査における患者さん個々の体型（面積）に応じた被ばく線量の評価方法です。今後X線CT撮影における被ばく線量の評価の中心に成り得る研究と高く評価されました。



シリーズ 職場めぐり

内科学講座糖尿病・代謝内科分野

私たち糖尿病・代謝内科は、教授の石垣 泰ら13名の医師で、増え続ける糖尿病や脂質代謝異常、肥満症の診療の充実と合併症の予防を目指し活動しています。

糖尿病診療では、一人の患者さんとの付き合いが長期間にわたるため、生活背景の理解も含めた全人的な診療が必要です。そのために平成26年から担当医師を固定した予約制として、診療の質と患者さんの満足度の向上に努めています。糖尿病では網膜症、腎症、神経障害のみならず、全身の幅広い臓器に合併症を引き起こすため、さまざまな領域の先生方と協力しながら診療を進めています。また数多くの診療科に入院している糖尿病患者さんの管理も重要な仕事のひとつです。

DPP4阻害薬の登場以来、糖尿病治療は大きく変化しました。さらにSGLT2阻害薬や作用時間に工夫を加えたインスリン、GLP-1製剤など新しい治療薬が広まってきています。またインスリン注入

ポンプや持続血糖測定機器などの技術の進歩も著しく、最先端の治療を岩手県の患者さんに届けるため、教室員一同がんばっています。

最近、診療科のホームページも開設しましたので、(<http://iwate-dm.jp>)是非ご覧になってください。
(教授 石垣 泰)



看護部（内視鏡診療部）

内視鏡診療部では高度で良質な医療の提供を目標に、年間約7,000件の上部消化管・下部消化管内視鏡検査や治療、小腸・大腸カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、内視鏡的逆行性膵胆管造影法、気管支内視鏡検査などを行っています。また、胃・食道・大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も年間約200件行われています。内視鏡治療では、医療スタッフのチームワークが重要です。そのため、定期的に医師とのESDカンファレンスを行い、治療方法や患者情報を共有して治療・看護にあたっています。

内視鏡看護師には内視鏡検査の進歩により、処置内容の増加や高度化に伴う専門性が求められています。私たちは患者さんに安全・安心な看護を提供するために、消化器内視鏡技師資格を持つス

タッフが中心となり、最新の内視鏡看護や治療方法を学び、日々の看護を実践しています。

(主任看護師 齊藤 法彦)



理事会報告（4月定例－4月27日開催）

1. 岩手県療育センター及び盛岡となん支援学校の受入れに係る土地の賃貸借契約について

岩手県療育センター及び盛岡となん支援学校の受入れについて、当該敷地の借用期間を30年として賃貸借契約を締結することに伴う覚書について承認

2. 附属病院移転事業に係る事業工程の変更について

矢巾新病院建設に係る附属病院移転事業について、昨今の資材・労務費の高騰による建設コストの上昇や国の医療政策の動向等も踏まえ、事業費削減に向けた取組みが必要であることから、今回、基本設計内容の一部見直しも含め、事業工程を変更することについて承認

学 事 案 内

学び、大学生活の楽しさを体感し、将来への道を広げる2日間。

岩手医科大学 オープンキャンパス2015

IWATE MEDICAL UNIVERSITY OPEN CAMPUS

医学部 歯学部 薬学部

School of Medicine

School of Dentistry

School of Pharmacy

岩手看護短期大学(設置者変更認可申請中) 看護学部(設置構想中)

7/25 sat 26 sun 10:00~15:00
矢巾キャンパス

盛岡、仙台、青森、弘前、秋田、横手より無料シャトルバス運行 詳しくはホームページで

岩手医科大学

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	菊池 初子
影山 雄太	江刺家和恵
松政 正俊	佐々木さき子
齋野 朝幸	米澤 裕司
小山 薫	佐々木忠司
藤本 康之	畠山 正充
佐藤 仁	大須賀志穂
成田 欣弥	武藤千恵子
山尾 寿子	野里三津子

編集後記

雨に濡れたあじさいがひととき美しいこの頃です。今号の特集は中津川の川辺に隣接する岩手医科大学医療専門学校の紹介です。この季節、対岸からの景観は川と緑の草木、建物のコントラストで風情を感じることが出来ます。是非一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

内容は歯科衛生学科や歯科技工学科をQ&A方式で詳しく掲載していますので、より身近になったと思います。鬱陶しい梅雨明けも間近ですが、体調管理に十分注意して真夏を迎えたいものです。

(編集委員 佐々木 忠司)

岩手医科大学報 第465号

発行年月日 平成27年6月30日
発行者 学長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111 (内線7023)
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

内科学講座神経内科・老年科分野 助教 石塚 直樹

メモリークリニックについて

当科では脳血管障害をはじめ、認知症やパーキンソン病などの変性疾患、頭痛・てんかんなどの機能性疾患、多発性硬化症に代表される脱髄性疾患や筋疾患・末梢神経障害に対する診療を日々行っております。これらの多岐にわたる診療の中で、今回は認知症専門外来である『メモリークリニック』についてご紹介いたします。

本邦では人口の高齢化に伴い認知症高齢者も急増し、平成24年の厚生労働省の発表によると65歳以上の認知症有病率は15%と推計され、この岩手県も例外ではありません。認知症の根本的な治療は開発されておらず、薬剤による治療は進行をとめるものではありません。しかし早期に受診し診断することにより、周辺症状といわれる怒りっぽさや徘徊などの症状に対して、介護保険の申請や介護者の対応方法などを含めた介護環境の調整や、薬剤による周辺症状の緩和を行うことにより、介護の負担を軽減することが可能となります。そこで我々は、認知症の早期診断・治療と認知症患者様を取り巻く環境への早期介入を目的に、平成18年7月から『メモリークリニック』としての活動を始めました。

『メモリークリニック』は、毎週月・木・金曜日の午前中に認知症専門外来として、当科外来にて診療を行っております。受診の経緯は、患者様や介護者様が直接相談されるケースのほか、院内・院外からの紹介です。紹介元は岩手

県内にはとどまらず、宮城県や秋田県などの近隣の県からもご紹介を頂いております。初診日には、詳細な現病歴聴取と診察、認知機能検査、頭部CT、血液検査を行います。その結果を検討し、必要に応じて入院での精査を行っております。『メモリークリニック』は現在総勢13名（医師5名、相談員3名、検査スタッフ5名）で診療にあたり、設立からこれまで1,400名を超える患者様が受診されました。認知症は薬剤による治療だけではなく、介護保険など社会資源の活用や地域連携が非常に重要になります。これからもその活動の幅を広げ、盛岡医療圏のみならず岩手県内、東北全体の認知症診療に力を尽くしていきたいと考えております。



メモリークリニックスタッフ
(後列左端が筆者 石塚)